西日本新聞

「無関心が犯罪招く」

西日本支店長会 砂田さんが講演

福岡市内に支店がある企業（二百十一社）の支店長で構成する西日本支店長会の例会が五日、福岡市中央区天神の福岡国際ホールで行われ、約七十人が出席した。

銃撲滅のための市民運動の会NGOストップ・ガン・キャラバン隊ジャパン代表の砂田向壱さん（五六）が「個人、企業の安全をどう守る」と題して講演。

砂田さんは、一九九四年にニューヨークで強盗に留学中の長男＝当時（二二）＝を射殺された経験から、銃撲滅と、個人や企業などの安全をどう守るかを考え、ボランティアと地域安全活動支援に取り組んでいる。

「個人、企業の安全をどう守る」と題して講演した砂田向壱さん

講演ではアメリカの銃犯罪の現状を紹介したうえで「日本国内でも凶悪犯罪が急増している。犯罪に対する無関心が原因なのではないか。安全を守るために、身近なことに関心を持ってほしい」と話した。

わが街 わが手で守ろう

住吉校区で犯罪報告会

「街灯増やして」「防犯カメラを」

参加住民から提案続々

犯罪マップを作成する住吉校区の住民

地域住民と警察、行政が協力して「安全・安心の街づくり」を行うための「住吉校区・犯罪の現状報告会」が四日夜、福岡市博多区住吉の住吉公民館で開かれた。

博多署管内でも犯罪件数の多い同校区の実態を住民に知ってもらおうと、自治会や防犯組合、福岡都市科学研究所が一緒になって企画。住吉校区の住民と博多署、市役所職員らの約六十人が出席した。

博多区の中ほどに位置し、北にキャナルシティ博多など近代的な商業地が立ち並び、南に美野島商店街など下町風情を残す同地区。建物の密集度が高く、主要な道路沿いを除いては見通しが悪く死角も少なくないために、ひったくりや車上狙いの犯罪が多発している。博多署によると、二〇〇二年一月から十月までの住吉宮前交番の犯罪認知件数は一〇三八件と、博多署管内の一交番平均の約一・九倍。二〇〇三年一月から六月までの同校区内での月平均犯罪認知件数は約四十一件という。

「犯罪報告会」では、こうした現状をクイズ形式で住民に知らせたり、住民自身に犯罪の多発している地区を地図に記入させたりしながら、「どうしたら犯罪を防げるか」、「住みよい街にするにはどうすればいいか」について意見が交わされ、「もっと街灯を増やしてほしい」、「自転車のかごには網を」、「防犯カメラの設置を」といった提案が積極的に出された。

会に参加した住吉四丁目の毛利武志さん（七一）は「集まりに積極的に参加することで実態がつかめる。自分たちの街は自分で守ろうという意識も強くなります」と話していた。